

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム ピアポート千寿苑		
所在地	千葉市中央区問屋町6-4		
自己評価作成日	平成27年1月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットでは、季節の飾り付けをしたり様々な行事を計画し、入居者様と一緒に明るく楽しい暮らしができるよう心がけています。併設の事業所の設備(特殊浴槽等)も使用させていただける為、ご希望があれば最期までグループホームで暮らしていただくことができます。また併設のデイサービスや特養でのレク、クラブ活動、行事等に参加できる機会もあり、これまでの趣味と合致しているものがあれば継続して楽しんでいただくことができます。近隣の保育園との交流も続けており、子供達とお散歩に行ったり、お互いに行き来して一緒に行事を楽しむ等、入居者様の楽しみとなり、明るい表情や積極的に関わる姿が見られています。また、職員それぞれが入居者様を知り、自分で考えて行動できるような取り組みもすすめ、ケアの質の向上に努めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境でゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」を理念に、ユニット玄関付近に掲示し職員間の共有を図っている。理念の読み解きについての研修も行い、実践に活かせるようにした。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に地域交流室を会議の場として開放している。また、近隣のスーパーやレストラン、夏祭りに外出したり、イベント時近所のスーパーに相談させていただいている。月に数回、地域の保育園児と一緒に散歩に行ったり、イベントを行う等の交流を持ち、入居者様も喜ばれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所への外出、保育園児との交流を行うことで積極的に地域へ外出し、地域の方との触れ合いを通して認知症の状態の方への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や法改正の説明等の際に合わせて行った。なかなかご家族様の都合がつかず、今後の開催についてご家族様とも話し合いの場を設け検討し、大まかな形式がまとまってきた為、来年度より定期開催したいと思っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や届け出等で不明な点は、その都度市の担当者にご相談させていただき解決している。また、市の方からボランティアの受け入れ等ご依頼のあった際は、積極的に受け入れるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やユニットのミーティング等で事例検討等を行い、身体拘束を行わないケアについて職員で話し合っている。2階出入口は階段が危険な為施錠しているが、1階正面玄関は開放され、出入りが自由となっている。外へ出て行ってしまう可能性のある入居者様については各事業所に資料を配布し、連絡をいただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について事業所内研修や事例検討を行い、学ぶ機会を持てるようにしている。また職員間でも口調が荒くなった際等は注意し合い、虐待の芽を摘み取れるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名、ご家族様より成年後見制度に関する相談があり、申請がスムーズに行えるよう取り計らった。現在は制度を利用されていないが、今後必要となる可能性のある入居者様については、ご家族様に制度についてお知らせした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時の見学・相談や入居前の見学・相談時、重要事項の説明時、入居時等数回にわたりご家族様とお会いし、説明・相談できる場を設けた。また契約書の改定時にはご家族様に直接ご説明、書面をやりとりし、不安解消に努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのアンケート結果を職員に伝え、今後のケアの方法について検討している。また報告会にてご家族様にお集まりいただいた際お話を伺ったり、ご家族様が面会に来られた際は随時職員・管理者より近況をご報告すると共にお話を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望等があった際には、管理者より直接理事長に話し、理事長まで伝わる体制をとっている。また日頃から職員と積極的に話す機会を作り、意見や提案、改善策等を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	目標設定型の給与体系に変わり、職員が目標を持って働ける仕組み作りを進めている。職員個々の仕事に対する姿勢や努力、実績、管理者から見た勤務状況等、査定の際面談時管理者から理事長へ報告し、把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要や希望に応じ施設内外の研修に参加してもらっている。参加費用を施設が負担したり、勤務の中で参加できるようにして職員のスキルアップややりがい作りに努めている。また未経験者でも採用し、業務の中で必要な知識・技術が習得できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問はできていないが、グループホーム連絡会や各種研修を通じて他施設の方と交流し、情報・意見交換を行っている。また併設事業所の職員・入居者様と一緒に行事を行ったり、ケアについて迷った時は他事業所の職員に相談する機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業所から情報を収集し、入居前の生活の様子を知ることによって安心して生活が始められるよう配慮している。入居後すぐは職員から積極的に関わりを持ち、ご本人やご家族様からお話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の面接時等、職員とご家族様のみでお話する機会を設け、ご家族様の心配事や要望等を話しやすい環境を作り、できるだけ分かりやすい説明を行うことで、ご家族様の不安解消に努めている。入居後もご意見やご要望等あれば遠慮なく言っただけのよう声をかけ、話しやすい環境を整えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の希望や要望、担当していた介護支援専門員から普段の様子を聞く等し、入居後必要な生活支援を検討している。ご本人やご家族様から他のサービスを利用したいと要望があった場合には、できるだけ要望に応えられるよう他事業所との調整を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの運営にあたり、入居者様に相談したり、家事活動と一緒にいたり、職員が日々の悩みを相談する等、支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院の付き添いをお願いしたり、来苑時に散歩に出かけてもらう、食事の介助をしていただく、また自宅や外食等ご家族と一緒に過ごせる場への外出支援等、職員と一緒に入居者様を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人に面会協力をお願いしたり、入居後間もない方には外出、外泊の協力をお願いし、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、気の合う方同士で食事の席が近くなるようにする、一緒に行事に参加してもらう等、入居者様同士がコミュニケーションをとりやすいように工夫している。話すことが難しかったり、耳の遠い人でも、職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となる場合には、その後のご本人やご家族様の生活について相談し、必要に応じて関係機関と調整をとったり、退居後入院先の医療機関に面会に行ったりしている。亡くなった後も葬儀に参列させていただき、ご家族と故人を偲ぶ機会を持てるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言語での意思表示が可能な入居者様についてはよくお話を伺い、出来る限りご本人の意向に沿ったケアを提供できるようにしている。難しい入居者様については、日頃からの表情や言動、ちょっとした仕草や変化等でご本人の希望や意向を汲み取れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、ご本人やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業所からお話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でアセスメントを行い、現状の把握に努めている。普段と違う様子が見られた時は、連絡ノートやミーティング、毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の処遇について、ご本人やご家族様から希望や意向を伺い、ユニット会議等で検討し介護計画に反映できるようにしている。現状にあまり変化が見られない場合もモニタリングを行い、現在行われているケアが適切かどうか、ニーズに沿ったケアが提供されているか確認をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として個別に記録している。情報共有のツールとして使用されたり、介護計画を立てる際やモニタリングを行う際の資料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望により、併設施設のクラブ活動やレクリエーションの参加、訪問マッサージや歯科往診の利用、出かけた場所への外出支援等、その時々ニーズに合わせて出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園児との交流を持つことで、子どもや孫を育てていた頃を思い出して一緒に楽しんでいただいている。地域ボランティアの方の歌や踊りの鑑賞、また介護支援ボランティアの方や介護相談員とのお話等、生活が豊かで楽しいものとなるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族様で相談して決めていただいている。往診医に変更される場合は引継ぎが円滑に行えるよう、支援している。また認知症の状態や既往症との兼ね合いを踏まえ、現状の理解を家族と共に深める為、専門医の通院が必要な入居者様には同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に対する気付きや記録が不足している部分もあるが、体調の変化等に気付いた時には看護師に報告し、必要な対応について相談している。また普段から看護師による健康管理を行い、異常があれば早期に発見・対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーや地域生活連携シートを提出し、治療や看護の際に参考にさせていただいている。退院時には受け入れ状態について看護師と相談し、ご家族様やソーシャルワーカーを通じ医師や看護師とも連携して、退院後の生活を支えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時等に重度化された場合の対応について説明し、ご意向を伺っている。体調に大きな変化があった場合には、ご家族様に現状や今後予測される症状、施設にてできること、できないことを説明し、日々の過ごし方等について具体的に話し合い、協力できるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議等で急変時の対応について話をしたり、実際のケースでの検討を行った。急変時の対応の方法について知識はあるものの、実際対応する場面になると対応が難しい、といったこともあり、今後シュミレーション等も取り入れた研修を行う必要があると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所や宿直者と協力しながら、消防署の指導の下、定期的に災害訓練を行い、利用者と職員が一緒に参加している。毎回想定を変え、その都度対応できるよう、訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人について知り、敬う気持ちを持ってそれぞれに合った言葉がけを心がけている。また排泄の失敗してしまったり、他者とトラブルになってしまった場合でも、個々の人格を尊重し、誇りや羞恥心に配慮した声かけができるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	発言された内容については否定せず受け入れたり、ご本人の意欲や思いを損なわないような対応ができるようにしている。また日常生活において選択肢を提示し、ご本人に選んでいただけるようにしている。希望に添えない場合についても丁寧な対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的に何かに参加したりするのではなく、入居者様ご自身のペースで生活できるようにしている。状況により難しいこともあるものの、職員自ら積極的に入居者様と関わりを持ち、人となりを理解・考慮した生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や整髪、染髪、カット等、それぞれのご希望やそれまでの生活歴に沿った対応ができるようにしている。また、入居者様と洋服を一緒に選ぶ、職員が選び着用していただく等、状況やその人らしさに合わせた身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事等は併設の厨房にて準備がされる為、ユニットでは配膳前の準備や片付け等、一緒にできる方と行っている。食事前にメニューをお伝えする、食事中楽しい雰囲気となるよう心がける等、食への楽しみを損なわないよう支援している。また行事食や調理レク、出前等で食べたいものを調理や購入して召し上がり、楽しみへつなげるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、その日の状況に応じて嗜好品の提供や声かけ等を行い、必要なエネルギー・水分量が確保できるようにしている。一人一人の状態に応じ食事の形態やとろみ剤の使用等、併設事業所の管理栄養士とも相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの入居者様の状況に応じて、歯磨き、歯磨きティッシュを使用した口腔内清拭等を毎食後に行い、清潔が保持できるようにしている。難しい方や希望のある方は歯科往診を利用していただき、連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを確認し、目安として誘導時間を設定してトイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄していただけるようにしている。それぞれの能力や状況に応じた支援を行い、不快の少ないよう支援している。夜間帯の排泄の支援では休息とのバランスを考慮し、実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの排便状況や身体状況に応じ、水分や食物繊維を含む食品を多く摂っていただくたり、歩行や体操等軽い運動を促し、できるだけ自然な排便ができるようにしている。また排便が見られない場合は冷たい飲み物の提供やマッサージを行う等し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在見守りなく入浴できる方がいない為、職員の複数いる10時～16時の間で週3回入浴していただいている。目安として曜日を決めて対応しているが、入る時間やタイミングはご本人に確認し入浴していただいている。また「入りたい」と訴えのあった場合もできるだけ入浴していただけるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間についてはこれまでの生活習慣を基本にしている。夜間安眠できるよう、温度や湿度、明るさ、寝具等に注意し、快適な睡眠環境を整えるようにしている。また体調や気分等にも配慮し、声かけや、不穏状態が見られた場合は一緒に過ごす等の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をまとめてファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。臨時薬の情報についても申し送りノートや投薬チェック表に記載し、職員間で情報の共有ができるようにしている。また臨時薬等を服用する場合には、服薬後普段と違う変化がないか観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔の話を伺う、体操や運動、それぞれの力を活かせる家事活動にお誘いし、楽しみや役割が持てるよう支援している。また、これまでの生活歴や季節ごとの行事を行い、楽しみが持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	概ね毎週保育園児との交流を持ち、一緒に公園に散歩に行ったり、保育園に出かけている。普段でも希望があれば、近所へ散歩や買い物に出かけている。また利用者様をよく知りご本人の体力も考慮し、できるだけ希望に沿った外出や公共交通機関を利用したの外出ができるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご自身でお金を持ち管理している方はいらっしゃるものの、外出時等の支払いをお願いする等の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がしたい時や不安、心配事がある場合には電話を取り次ぎ、ご本人自らとお話をしてもらおう。また生活の質の向上やご家族様との繋がりを保つ為、ご家族様にもご協力をお願いし、携帯電話を所持されている方には操作をお手伝いしたり、電話や葉書のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明器具の交換や排泄物の処理、温度や湿度を気にかけて、共用空間の掃除をしたり環境を整えるようにしている。またソファの配置を変えてくつろげるようにしたり、季節に沿った飾り付けをして共用空間でも季節感を感じ、居心地の良い空間作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの食事の席を検討する際、入居者様同士の相性や折り合いを考慮してお座りいただいている。また気分等でお一人になりたい時はあまり人の目を気にしなくても済むようなソファへご案内したり、セミパブ等も利用し、過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地良く過ごせるよう、ご自宅にて使い慣れたものや馴染みのもの、ご家族様の写真やアルバム等をご持参いただいている。整理整頓には心がけるが、配置についてはご本人やご家族様と相談している。また居室での事故が考えられる場合はご家族様とも話し合い、対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで車椅子を使用しても自由に往来ができるようになっている。ご本人の力を活かせるよう、入居者様の視線に合わせた表示や、シンプルな表示を心がけている。また職員が利用者様の能力を理解し、できることはご自身で行えるようなアプローチや見守りを行うようにしている。		